臺灣日日新報 第一萬五千七百九十六號 昭和十九年二月二十日（日曜日） 臺灣日日新報 （一）
（第二版）（朝鮮用一部は二月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報

本日四頁

ビスゼリー 台北販田本店

東條內閣改造斷行

大藏、農商、運通の三大臣交迭

【東京發至急報】政府は刻下の政戰兩面に亙る重大局面に對處するため內閣政治力の强化と決戰戰力の飛躍的增强を達成すべく內閣の改造を斷行するに決し、東條首相を中心に愼重之が具體的措置について協議中であつたが、十九日東條首相は宮中に參內、內閣の改造につき上奏、御裁可を仰ぎ、同夜九時半、天皇陛下には新閣僚の親任式を執行はせられ、同九時三十分情報局より左の如く發表された

情報局發表　本十九日午後九時三十分親任式を行はせられ左の通り發令せらる

任大藏大臣

正三位勳二等　石渡莊太郎

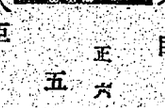
任農商大臣

正六位　內田信也

任運輸通信大臣

正五位勳三等　八田嘉明

任軍需大臣



正三位勳一等　岸信介

任內閣書記官長

正五位勳三等　星野直樹

任內閣顧問

正六位　賀屋興宣

正五位勳一等　山崎達之輔

正三位勳一等　島田俊雄

正三位勳一等　岡田忠彥

正三位勳一等　藤原銀次郎

正三位勳一等　安藤紀三郎

正三位勳一等　小林一三

正三位勳一等　寺島健

正三位勳一等　鈴木貫太郎

正三位勳一等　下村宏

正三位勳一等　池田成彬

正三位勳一等　末次信正

正三位勳一等　小倉正恒

正三位勳一等　村瀨直養

正三位勳一等　有馬良橘

正三位勳一等　荒木貞夫

正三位勳一等　平沼騏一郎

正三位勳一等　阿部信行

正三位勳一等　米內光政

正三位勳一等　小磯國昭

正三位勳一等　南次郎

正三位勳一等　林銑十郎

正三位勳一等　廣田弘毅

正三位勳一等　近衛文麿

正三位勳一等　若槻禮次郎

正三位勳一等　清浦奎吾

正三位勳一等　平沼騏一郎

正三位勳一等　阿部信行

正三位勳一等　米內光政

正三位勳一等　小磯國昭

正三位勳一等　南次郎

正三位勳一等　林銑十郎

正三位勳一等　廣田弘毅

正三位勳一等　近衛文麿

正三位勳一等　若槻禮次郎

正三位勳一等　清浦奎吾

緊急對策に磐石の味

【東京發】東條首相は戰爭の段階的飛躍的激化に對處し國內態勢の飛躍的强化を期するため十九日內閣の改造を斷行したが、今次の改造は昨年四月二十日の第一次改造につぐ第二次的改造であり、軍需、運輸部門なる陸海軍三部面に屬する陸軍の兩大臣が更迭したことは第一に內閣の强化を期したものであり、殊に軍需大臣に陸軍の最高首腦部の一人たる岸信介中將が就任したことは、內閣の戰爭指導力を飛躍的に强化するものであつて、今次改造の眞意義は實にこの點に存するものと觀られる

卓拔な手腕に期待

【東京發】今次の內閣改造の中心となつた大藏大臣として岸信介中將が就任されたのは內閣の戰爭指導力を飛躍的に强化するため軍需大臣として陸軍の最高首腦部の一人たる岸中將を內閣に迎へ、軍需生產の飛躍的增强を圖るとともに、內閣と統帥部との緊密一體化を圖らんとするものであつて、岸中將の卓拔な手腕に期待するところ大きいものがある。五島運輸通信大臣は鐵道省の最高首腦として

新閣僚三氏の經歷

石渡莊太郎氏略歷　東京都出身、本年七十四歲、大正五年東大法科卒業後大藏省に入り、稅務監督局長、主稅局長、理財局長、次官を經て昭和十年勅選貴族院議員となり、同十二年第一次近衛內閣の大藏大臣として入閣、翌十三年內閣參議、同十四年大藏大臣に再任、同十五年內閣參議、同十六年樞密顧問官に任ぜられ、地方行政の簡素化に努力し、特に地方長官會議において內閣の施策を徹底せしめたこと內閣情報局總裁として內閣の宣傳指導に當つたこと等は夙に知られてゐる

內田信也氏略歷　（六十三歲）、長野縣出身、明治四十四年衆議院議員當選、同六年七月同內閣の遞信次官に就任、同九年七月同內閣の鐵道大臣に就任、昭和十八年七月現內閣參議に親任されるまで前後三回に亙り鐵道大臣に就任せられ、地方行政の簡素化に努力し、特に地方長官會議において內閣の施策を徹底せしめたこと內閣情報局總裁として內閣の宣傳指導に當つたこと等は夙に知られてゐる

五島慶太氏略歷　（六十三歲）、長野縣出身、明治四十四年東京帝大法科卒業、鐵道院に入り、同院參事官、鐵道院監督局長、鐵道院理事、鐵道大臣秘書官、鐵道院總裁官房文書課長、鐵道院總裁官房主事、鐵道院參事

社說

無意識の利敵行爲を指摘す

貴族院本會議では、六日午後一時から開會の豫算委員會に於ける政府委員の說明に對して、活潑な質疑應答が行はれたが、その中で、三月一日から二ヶ月間、郵便貯金の他動力の下「決戰貯金強調運動」を展開するに當つて、その趣旨の徹底を期するために、政府當局が「決戰貯金」といふ言葉を使用することに就いて、その不適當なる點を指摘し、これを改めるやうに要望した議員があつたが、その要望は、まことに當を得たものと言はねばならない。

◇

「決戰」といふ言葉は、國民の士氣を昂揚し、戰意を振起するために、最も適切な言葉であるが、その反面、國民大衆の生活の上に、或る種の緊張感を與へ、ともすれば、國民大衆の生活の安定感を動搖せしめる虞れがあるのである。

例へば、「決戰」といふ言葉が使はれると、國民大衆は、何か戰爭の最後の段階に入つたやうな感じを抱き、從つて、物資の買ひ溜めや、貯蓄の引出しなどの現象を生ずる虞れがあるのである。

◇

政府當局は、國民大衆の生活の安定感を動搖せしめるやうな言葉を使用することを極力避けるべきであつて、國民大衆の生活の安定感を動搖せしめることは、結局、戰爭遂行の上に無意識の利敵行爲を敢てすることになるのである。

◇

貯蓄增强運動の如きは、戰爭遂行の上に、極めて重要な意義を有するものであるが、その運動の展開に當つては、國民大衆の生活の安定感を動搖せしめるやうな言葉を使用することは、極力避けなければならない。

◇

申すまでもなく、戰爭は、政府當局のみで遂行し得るものではなく、國民大衆の協力があつて、はじめて遂行し得るのであるから、政府當局は、國民大衆の生活の安定感を動搖せしめるやうな言葉を使用することは、極力避けなければならない。

◇

貯蓄增强運動の如きは

敵十字砲火に身を晒し 将兵の看護に獻身

日夜・戰はぬ激戰續く救護班

上海戰線の勳功 陰に博愛の士

【上海特電】思ひ出の上海戰線に勇ましく出動した陸軍部隊の看護に當つた日赤救護班、國際都市上海に皇軍が數十倍の敵軍を引きうけて奮戰を續けてゐる間、内地から續々と送られた救護班は、敵彈雨飛の中にあつて傷病將兵の看護に當つた。昭和十三年十二月南京第一陣に續いて、十四年三月有明艦で送られた内海のぶえさん（當時淸瀨姓）等は、上海戰線に於ける日赤救護班の第一陣として、金田部隊等に從軍、昭和十三年十二月南京第一陣に續いて、十四年三月有明艦で送られた内海のぶえさん（當時淸瀨姓）等は、上海戰線に於ける日赤救護班の第一陣として、金田部隊等に從軍、

玉砕勇士へ弔慰金

昂る本島在住華僑の感激

タラワ、マキン島守備隊玉砕に際し、在住華僑の感激は實に昂るものがあり、昭和十三年十二月南京第一陣に續いて、十四年三月有明艦で送られた内海のぶえさん（當時淸瀨姓）等は、上海戰線に於ける日赤救護班の第一陣として、金田部隊等に從軍、

内地だより

米の責任生産制

島都市バスの運行

戰ふ輸送力に協力 勝抜く決意のせて

「列車常會」和やかに蘇澳へ

交通秩序總動員に成果

戰力增強と國民生活

勝敗の鍵は補給にあり 獻納しよう輸送力

白い手・追放・女性も生産戰列へ

輸送力は生産の基底

活かせ滅敵への創意

きのふ・皇奉宣傳協力委員會

國語常用に邁進

島都・府青年團で推進隊結成

東京幼年學校卒業式

生徒募集

明るい名刺 精美堂

上女中入用

結髪師入用

公告

會葬御禮

株式取引ニ關シ謹告

今日の映画

新作の映画

船舶への給水施設
防空強化等に重點豫算

【臺北電話】臺北市では十九年度豫算編成中であつたが此の程豫算總額百十五萬圓を以て市會に提出、二十日市會で審議に入る筈である、豫算の内容は十八年度豫算に比し百四十三萬圓の增加であるが、增加の主なるものは防空强化費として二十萬圓、船舶への給水施設費として二十萬圓、道路改修費として十萬圓、上水道擴張費として十萬圓、市營住宅建設費として十萬圓、市營市場建設費として十萬圓、市營屠場建設費として十萬圓、市營火葬場建設費として十萬圓、市營公會堂建設費として十萬圓、市營公設質屋建設費として十萬圓、市營公設浴場建設費として十萬圓、市營公設食堂建設費として十萬圓、市營公設理髮所建設費として十萬圓、市營公設洗濯所建設費として十萬圓、市營公設託兒所建設費として十萬圓、市營公設産院建設費として十萬圓、市營公設病院建設費として十萬圓、市營公設診療所建設費として十萬圓、市營公設保育所建設費として十萬圓、市營公設幼稚園建設費として十萬圓、市營公設小學校建設費として十萬圓、市營公設中學校建設費として十萬圓、市營公設高等學校建設費として十萬圓、市營公設大學建設費として十萬圓、市營公設專門學校建設費として十萬圓、市營公設圖書館建設費として十萬圓、市營公設博物館建設費として十萬圓、市營公設美術館建設費として十萬圓、市營公設音樂堂建設費として十萬圓、市營公設劇場建設費として十萬圓、市營公設映畫館建設費として十萬圓、市營公設寫眞館建設費として十萬圓、市營公設印刷所建設費として十萬圓、市營公設製本所建設費として十萬圓、市營公設製紙所建設費として十萬圓、市營公設製版所建設費として十萬圓、市營公設製圖所建設費として十萬圓、市營公設製模所建設費として十萬圓、市營公設製型所建設費として十萬圓、市營公設製鑄所建設費として十萬圓、市營公設製罐所建設費として十萬圓、市營公設製函所建設費として十萬圓、市營公設製袋所建設費として十萬圓、市營公設製帽所建設費として十萬圓、市營公設製靴所建設費として十萬圓、市營公設製革所建設費として十萬圓、市營公設製材所建設費として十萬圓、市營公設製紙所建設費として十萬圓、市營公設製版所建設費として十萬圓、市營公設製圖所建設費として十萬圓、市營公設製模所建設費として十萬圓、市營公設製型所建設費として十萬圓、市營公設製鑄所建設費として十萬圓、市營公設製罐所建設費として十萬圓、市營公設製函所建設費として十萬圓、市營公設製袋所建設費として十萬圓、市營公設製帽所建設費として十萬圓、市營公設製靴所建設費として十萬圓、市營公設製革所建設費として十萬圓、市營公設製材所建設費として十萬圓

國體の觀念を明徴
十九年度實踐項目決定

【臺中】昭和十九年度に於ける臺中州下各郡市の實踐項目は左の六項目に決定、同十五日打つて一丸となり火の玉となつてこれが具現に邁進することとなつた

一、國體觀念の明徴による必勝信念の昂揚
二、決戰生活に即應する生産の擴充
三、國民皆兵の徹底による防衛力の强化
四、大東亞共榮圏の確立
五、道義的國民生活の確立
六、大東亞戰完遂

御神符と人形五箱
稻梗倶樂部員の慰問

【臺北】臺北市稻梗倶樂部では昭和十九年度に於ける倶樂部員の慰問品として左の如く決定、二十日午前十時より同部に於て慰問袋に詰めて發送した

一、御神符　五箱
一、人形　五箱
一、慰問文　一通

勇んで戰力增强に
つとめませう　三月常會申合

【臺中】臺中州では三月の各種會合に於て左の如く申合せた

一、必勝生活の確立
二、國民皆兵の强化
三、民防空の完璧
四、決戰生産の擴充
五、道義的國民生活の確立
六、大東亞戰完遂

業課長會議
【臺中電話】臺中では二十日午前十時より業課長會議を開催、左記事項を協議した

一、決戰生活の確立
二、必勝生産の强化
三、國民皆兵の徹底
四、民防空の完璧
五、道義的國民生活の確立
六、大東亞戰完遂

一日二錢、卅二萬圓
飛機獻金へ市民の淨財

【花蓮港電話】花蓮港市では海軍獻納飛行機獻金として十九年度豫算に二萬圓を計上、昨年度豫算に比べ一萬圓の增加であるが、一日二錢の割合で市民より獻金を仰ぐことに決定した、尙ほ獻金は二十三日より開始する筈である

豐原號十五萬圓目標
率先、郡守も大口の獻金

【豐原電話】豐原郡では海軍獻納飛行機豐原號獻金として十五萬圓を目標に二十三日より一般に募金を開始することとなつたが、郡守は率先大口の獻金をなすこととなつた

石に嚙りついても
增産へ勞力の合理活用

【豐原電話】豐原郡下の鑛山勞務者は七百餘名であるが、最近に於ける增産の氣運に伴ひ勞力の不足を來し、郡當局では之が對策として目下鑛山勞務者の增加に努めてゐるが、尙ほ一層の增加を圖るため、今回郡下の各學校生徒を動員して增産に協力することとなつた

冬籠り戰力へ
(其ノ二)

椰子
海野十三作
村上松次郎繪

(159)

臺灣日日新報
臺北市太平町一ノ九四
木村内科醫院
電話一四四九番

健康報國
ワーミン芳香油
(全島各藥店にあり)
發賣元　東京堂藥局
臺北市榮町三丁目

健康報國
ミネラール
臺北州賣藥製造工業組合

名人長次郎
特別出演　エンタツ　アチヤコ
爆笑王
文化映畫「明るい村」
日本ニュース
二十日ヨリ
五〇セン(稅共)　臺劇

東寶映畫時代劇巨篇
長谷川一夫・山田五十鈴主演

海賊船吹ッ飛ぶ
23日より
痛快無比！
大活劇！
總指揮　辻吉朗演出
大世界館封切

撃滅英米敵仇
擊戰英亞
の全貌！

臺灣案內
ラジオ
小店
寫眞
社員
女事
乳兒
結婚
有給
接客
看護
家無
家が
求貸
和裁
タイプ
植木
古書
結婚
萬適
防空
引越
陸上
引越
衣類
補二
賣電
H.S
植木
のせ
引越
獻品
社員
花蓮港市豫算
椰子
海野十三作
村上松次郎繪
冬籠り戰力へ (其ノ二)
豐原號十五萬圓目標
石に嚙りついても
增産へ勞力の合理活用
名人長次郎
海賊船吹ッ飛ぶ
豐原號十五萬圓目標
石に嚙りついても
增産へ勞力の合理活用